

---

# 君の後ろで僕らは今日も戦う

川内 つかさ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君の後ろで僕らは今日も戦う

### 【Nコード】

N3545BA

### 【作者名】

川内 つかさ

### 【あらすじ】

主人公は何処にでもいる普通の高校生。なのに、少年は突然死人に魅入られる。死人を眠らせる組織と、死人を増やす組織の間に挟まれた何でもない普通の人間。彼が選ばれた意味と、彼らが存在する意味。人間世界の裏で戦う、決して誰かに知られることのない少女たちの奮闘記。「お願い。私のことを知って」。現実と幻想が入り交じる物語風に書きたいと思います。

## プロローグ

駅から離れた、人通りの少ない路地裏。

空は黒く塗りつぶされているが、路地を囲うビルのおかげで狭まった空と明るい街のおかげで星は見えない。

暗く人が一人やっと通れそうなほど細い路地には、冬の冷たい空気だけが流れていた。

突然、ビルの壁に、丸いシルエットをした黒い影のようなものが浮き出る。

当然人通りの少ない路地の上に、影が浮き出た場所は人の手が届くような高さに位置していない。

ズズズ、と黒い影が独りで壁を這って奥へと移動し始める。

その動きはゆっくりで、抜き足差し足で逃げているようにも見える。

だが影がゆっくりと壁を這っているその真上の空に、黄金色に輝く円陣が浮き出る。

影はその円陣に気がついたのか、先程よりも早い動きで壁を這い出した。

黒い影が動き始めると、空に浮き出た円陣がガラスのように粉々に割れ、少女が飛び出した。

少女は細い棒の先端に円盤が取り付けられている、標識のようなものを手にして逃げる影を追った。

少女は人間では到達できない高さを飛び、少女は一度も地に足をつかず、壁を蹴りながら黒い影を追う。

黒い影はビルの壁を這うように逃げ続けるが、高く、長い距離を飛ぶ少女にはあつという間に追いついてしまう。

少女がビルに這う黒い影に隣に並ぶと、少女は宙に浮きながら持っていた棒を槍投げのように勢い良く投げた。

少女が投げた棒の円盤が壁に刺さると、黒い影は怯えたように後

退するが少女が再び投げた似たような棒が黒い影の後方を塞ぐ。

前方と後方を塞がれた黒い影は困ったように停止するも、その間にも少女は両手を広げて大量の棒を召喚する。

少女は両手にその棒を掴むなり投げては再び周囲にある棒をつかみ、クルクルと体を上手く回しながら黒い影に向かって投げる。

壁に何ども棒が突き刺さった為視界に少し砂煙が舞う。

全部の棒を投げ終えると、少女は最後に一本を片手にしながら砂煙が収まるのを待った。

「……！！」

砂煙が晴れると、そこにあるのは少女が刺した大量の棒のみ。

そこに黒い影の姿が見当たらず、少女は思わず左右に首を動かした。

少女が辺りを見回していると、少女が投げた棒の束の下から、徐々に黒い影が大きくなって浮き出始める。

少女がそれに気づいたとき、黒い影は水から飛び出す魚のように飛だし、少女の顔の手前でカックンと曲がって再び少女の前から逃げ出した。

少女は一瞬あっけを取られたが、再び影に向かって宙を飛んだ。

影は今度は壁の中に入らず、ビルとビルの間を飛ぶ。

視界に、ぼんやりとした光が目に入る。

それは一つではなく、多くの明かりが集中していて、人の声も聞こえ始める。

このまま行くと、少女と黒い影は人通りの多い街中へと飛び出してしまうことになる。

少女は音と光から街に繋がる事を察すると、急に立ち止まって棒を両手に持つ。

すると先端の円盤に黒い霧のようなものが纏わりつき、霧に包まれた円盤がメキメキと音を立てながら円盤から形を変えていく。

丸かった部分の片方は伸ばした生地のように伸び、先端が尖っていく。

包丁の先端が曲線を描いたようになる。黒い霧が晴れ、顔を出した棒は標識のような形から死神が持っているような鎌のような形へと姿を変えていた。

少女は鎌になった棒を影に向かってブーメランのように投げとばす。

このままいけば間違いなく影には当たる。はずだった。

丸い形をしていた黒い影から、ニョキッと細長い影が生えた。その影の先端は大きく膨張し、フォークのように五箇所、針のように尖る。

それは、大きな黒い手だった。

影が自分に向かってくる鎌を鷲掴むと、影はボロボロとガラスのように呆気なく砕けてしまった。

少女はそれを見て、口を開けて呆然と宙に立ち尽くす。

その間に、黒い影は大きな手で壁を叩き、助走をつけて速いスピードで少女の前から逃げ出した。

少女は逃げる黒い影を追いかけようとするが、黒い影は既に、街の中へ入って姿を消してしまった。

少女は一旦地に降りて、疲れたように建物の壁に体をあずけた。

少女の視界には学生や仕事帰りのサラリーマンやOLなどが映る。人が多く行き交う場所で空を飛ぶと変に目立ってしまうため、少女は足を止めた。

少女が顔を上げると、影が最後に助走をつけるために手をついたあとが、くつきりと残っている。

「……鷹峰市、か。」

少女は跡を見上げながら小さくそう呟くと、体が霧のように分裂し、風に飲まれて消えていった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3545ba/>

---

君の後ろで僕らは今日も戦う

2012年1月9日05時03分発行